

番号	3-1-1	表題	第一沈殿池汚泥かき寄せ機の更新計画策定に向けた劣化状況分析	
内容	<p>当局では、高度経済成長期以降の流入下水量の増加に対応するために建設した施設の老朽化が進行している。こうした状況を踏まえ、効率的かつ計画的に設備の補修、改良や再構築を推進していくため、更新の目安として標準的耐用年数より長い経済的耐用年数を設定した「設備再構築基本計画」を策定し、定期的に改定を行っている。</p> <p>本稿では、第一沈殿池汚泥かき寄せ機の劣化状況調査の蓄積データを分析、考察し、現在 20 年としている経済的耐用年数について、更なる延長が可能か評価を行った。</p> <p>調査分析対象は、東京 23 区内において、平成 27 年度から令和元年度までの 5 か年の間の工事から抽出した 19 件の第一沈殿池の駆動チェーン、主務チェーン、駆動スプロケット、主務スプロケット、シュー、レールの 6 種とした。</p> <p>これらの主に摩耗率について経過年数との関係を調査した結果、25 年経過時点までは各部位摩耗は許容値を満足していた。このことから、汚泥かき寄せ機の経済的耐用年数を 20 年から 25 年に延長することが可能と判断し、報告するものである。</p>			
キーワード	標準耐用年数、経済的耐用年数、第一沈殿池、劣化状況調査、散布図			
処理区名		位置区分	水再生センター	
職種区分	設備	施策区分	再構築、維持管理向上、効率化	
状態区分	調査 研究、計画	新規性	新規知見あり	
実施年度	令和 2 年度	全体期間	令和 2 ～ 3 年度	
担当部署	施設管理部 施設保全課 調査担当			
発表履歴	局内			
	局外	第 58 回下水道研究発表会		
調査方法	直営調査、委託調査			
関連情報	設備再構築基本計画			